

令和4年度 京都府立嵯峨野高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>◇ 「和敬」・「自彊」・「飛翔」を教育の柱に据え、志を持って人生を主体的に生きる生徒を育て、国際社会のさまざまな分野でリーダーとして貢献できる人材の育成を目指す。</p> <p>◇ 高いレベルでの自己実現を希求し、主体的に学ぶ姿勢と高みに挑むチャレンジ精神を備えた生徒の育成を図る。</p> <p>◇ 豊かな人間性の育成と高い学力の伸長を図る。</p> <p>◇ 生徒・教職員が一体となり、社会の教育力を有効に活用しながら Sagano Dynamics を推進する学校づくりを進める。</p> <div data-bbox="168 1066 636 1230" style="border: 1px solid green; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>Sagano Dynamics: the way in which things or people behave and react to each other</p> </div>	<p>① 1人1台端末、HR教室設置のプロジェクトを活用して授業、学校行事、ガイダンス等を進めた。ICT質問箱を設けることで学校全体としてICT機器に関する情報共有を図るなど、ICT利活用を推進し、コロナ禍でも教育を進めることができた。国際交流についてはオンラインで継続実施し取組をさらに充実させることができた。学習用タブレットの適切な活用方法については検討を継続し、高い情報モラルも身に付ける教育を推進していく必要がある。</p> <p>② 探究活動の発表会、ラボ交流会（2・3年）、キャリアワークショップ（1・3年）を通して学年を超えた学びの共有ができた。SSH第3期は、基礎枠で採択され、新たに5年間の指定研究に取り組むことになった。アカデミックラボについては研修会を通して教科を超えた指導法の共有を進めることができた。今後は、探究活動を生徒の主体的な学びの推進や進路選択・キャリア意識の形成につなげる仕組の構築が必要である。またラボ活動については、担当教員以外への情報共有を円滑に進め、成果や手法を校内外へ強く発信していく必要がある</p> <p>③ 日々の学習指導や進路学習、個別面談に加え卒業生講話、高大連携事業、各種ガイダンス等を進めることで、高い進路目標を達成する生徒の育成につなげることができた。新学習指導要領の本格実施に際し、指導と評価の一体化につながる教育活動を進めることが今後の課題である</p> <p>④ 個人面談、教科担当者会議、学年会議等を通して生徒情報を共有し、効果的にサポートすることができた。コロナ禍においても生徒会や各委員会が工夫を重ね、できる限りの学校行事を実施し、生徒の主体的な活動の場を保障することができた。生徒の人権意識のさらなる向上や挨拶等のマナー意識の向上に向けての指導が必要である</p> <p>⑤ 新型コロナウイルス感染症拡大防止については、全校体制での指導を継続することができた。また、校内美化については保健美化委員会の活動により意識の向上に努めることができた。ごみの分別の徹底が今後の課題である。</p> <p>⑥ Wi-Fi整備に伴い、図書館での端末利用が進んだ。様々な企画展示により読書への興味関心を喚起することができた。今後も資料提供の充実とともに、一人一台端末利用に対して、安定した接続環境や設備の維持に努めていきたい</p> <p>⑦ コロナ禍においても形態を工夫して学校説明会を実施し、本校の魅力を伝えることができた。本年度は、中学生の志望動向の変化に対応した広報活動と、より効果的な情報発信のためのHPのリニューアルについての検討を進めていきたい。</p>	<p>① 魅力ある学校作り 主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。</p> <p>② 組織とその運営 分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進する。</p> <p>③ 学習と進路指導 新学習指導要領に基づいた学習指導を円滑に進め、観点別評価の実践をさらに進めるとともに、あらゆる機会をとおして、高い進路目標の実現に努める生徒を育成する。</p> <p>④ 生徒指導と特別活動 人権尊重の意識や挨拶、マナー等の規範意識を向上させ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、リーダーを育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。</p> <p>⑤ 健康安全と環境美化 新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組を継続する。心身両面において支援の必要な生徒が健やかな学校生活が送れるようにサポートする。ゴミの分別を徹底し、校内美化に努める。</p> <p>⑥ メディアの活用 学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や読書活動の支援に努める。</p> <p>⑦ 家庭・地域社会との連携と広報活動 小中高連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から選ばれる学校をめざす。</p> <p>⑧ 施設設備・文書管理 学習環境の維持、適切な文書管理、情報管理を行う。</p>

評価基準

A 充分達成できている(目標以上の成果が得られた) B ほぼ達成できている(ほぼ目標どおりの成果が得られた)

C 達成できているとはいえない(成果が不十分である) D ほとんど達成できていない(ほとんど成果がない)

評価領域	重点目標	具体的方策		まとめ
魅力ある学校づくり	主体的に学び続ける生徒を育てるため、質の高い学びを提供する。	質の高い授業を行い、高い志を育む教育活動を実践する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業評価アンケートの結果などからも、授業の質は維持されていると考えられる。</li> <li>通常授業や研究授業等において、学習用タブレットの活用方法の共有、改善に取り組むことができた。今後はさらに学力伸長に向けたICT活用に取り組む。</li> <li>年間36回延べ1970名の生徒がオンラインによる国際交流を実施し、海外の高校生と京都の伝統や日本文化について交流することができた。</li> <li>毎月、ICTに関わるミニ研修会を実施し、教員のスキルアップにつながった。</li> <li>学習用タブレットの活用は、授業の場面だけでなく、学校生活の様々な場面に広げていけるように取り組む。</li> </ul>
		SSHをはじめとした各種指定事業を推進し、生徒の学びを充実させるための先進的な教育活動を提供する。	B	
		多様な観点から日本の伝統や文化について理解を深める指導やグローバルな視点を養うための国際交流やラボ活動など様々な取組を実施する。また自信をもって自分の意見を発信する場面を設定し、学校一丸となり指導に取り組む。	B	
		学習用タブレット端末を活用した授業実践を通し、個に応じた指導を進めることで学力のさらなる伸長を図るとともに、研修会や公開授業を開催し、教科の枠を越えた学習用タブレット端末の活用方法の共有を図る。	B	
組織とその運営	分掌間の連携を密にして、全校体制で教育活動を推進する。	ICT技術の活用などを適宜行うことを通して、各関連部署の連携を緊密にし、生徒情報や効果的な指導に役立つ取組を共有する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種の連絡をそれぞれに応じたソフトウェアを活用することで、円滑に行うことができただけでなく、文字情報を残せることで検索性が向上し、業務の改善につながることができた。</li> <li>情報の共有や、分掌間の協力体制の強化は、重要であるので、今後さらに推進できるように取り組む必要がある。</li> <li>新学習指導要領に基づく教育活動の実践例の共有に課題があった。</li> </ul>
		新学習指導要領に基づく教育活動を円滑に進めるために情報収集と実践例の共有を行う。	B	
		探究活動における発表会、とこのは祭や学校説明会など各行事や取組について、分掌間での協力体制を強化する。	A	
学習と進路指導	新学習指導要領に基づいた学習指導を円滑に進め、観点別評価の実践をさらに進めるとともに、あらゆる機会をとおして、高い進路目標の実現に努める生徒を育成する	適切な評価を行うため、各教科の実施状況を学校全体で共有するとともに、評価方法についての研修を実施する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>3観点による評価については、各教科において継続的に検討されてきた。今後教科間の共有についても十分に行われる必要がある。</li> <li>令和7年度入試を見据えた授業や補習展開について議論を深める必要がある。</li> <li>多数の生徒面談を通して、生徒の将来像の明確化や生徒の状況（メンタル面、学習面等）の把握に努めた。</li> <li>コロナ禍においても、オンライン等を活用してガイダンスや説明会を実施することができた。</li> </ul>
		学校全体として、生徒が学習に対して常に前向きな姿勢が維持できるように支援するとともに、生徒が学習を継続するための心理面でのサポートも充実させる。	B	
		進路ガイダンスや生徒・保護者との面談などを適切な時期に実施し、将来像の明確化や学習状況の確認を行い希望進路の実現のためのサポートをする。また、広い視野に立った進路選択のあり方や社会との結びつきを念頭に置いたキャリア教育の充実に努める。	A	
		最新の大学入試についての情報を学校全体で理解を深め、多様な入試に対応する力を育てる。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策		まとめ
生徒指導と特別活動	人権尊重の意識や挨拶、マナー等の規範意識を向上させ、自立した行動ができる生徒を育てる。また、特別活動をとおして、リーダーを育成し、対話を重視した活気ある生徒集団を育てる。	人権学習を通じて、基本的人権を尊重する心を育み、人権問題を直視し、解決に取り組む姿勢を育成する。また、他者への理解を深め、自他を共に尊重する態度を育てる。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・毎日の教育活動を通して、身だしなみやルール・マナーについて指導してきたが、より徹底した指導を全校体制で行う必要がある。</li> <li>・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策の継続や人権意識、規範意識の醸成に努めた。</li> <li>・「とこのは祭」や「野外活動」等を通して、生徒の主体性や適切な判断力、実践力を向上させることができた。</li> <li>・「18歳成人」を踏まえ、主権者としての自覚を促すべく主権者教育を実施したが、継続的に取り組むことが必要であった。</li> <li>・委員会活動において、生徒の参画意識を高めるために、生徒発案を取り上げるように努めた。</li> </ul>
		学校行事、委員会活動、部活動などの活動を通して、生徒が主体的に企画・運営する力を育む。	B	
		身だしなみ・挨拶・ルールやマナー等の規範意識を醸成するために、毎日の教育活動の中で意識づけを行う。また、望ましい対人関係を構築することを意識させるために適切な助言を行う。	B	
		18歳成人を踏まえた主権者教育やデジタルシチズンシップ教育を学校全体で取り組む。	B	
健康安全と環境美化	新型コロナウイルス感染症拡大防止の取組を継続する。心身両面において支援の必要な生徒が健やかな学校生活を送れるようにサポートする。ゴミの分別を徹底し、校内美化に努める。	心身両面において支援の必要な生徒のニーズに対応し、健やかな学校生活を送らせる。またその過程を通じて、高校卒業後に必要な能力を育成できるように努める。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・様々な課題のある生徒に対して、校内の教育支援コーディネーターを中心にして、外部機関との連携をもちながら対応することができた。</li> <li>・教室の換気や手洗いについて、意識が高まった生徒が多くなってきた。</li> <li>・委員会活動において、教室のCO<sub>2</sub>濃度測定による換気の必要性の周知や、ゴミの分別徹底のポスター作成により周知することで、状況の改善が見られた。</li> <li>・節電に対する意識の向上に向けて課題があった。</li> </ul>
		全校体制で、教室の換気、手洗いの励行、マスクの着用をより一層徹底させるとともに、生徒の感染に対する意識が緩まないよう特に黙食の徹底について1年を通して指導を継続する。	A	
		保健美化委員会の活動を通して校内美化に関する意識をより高め、学校全体で、節電、ゴミの分別と減量、美化意識の向上につながる取組を実施する。特にリユース・リサイクルを意識した物品管理を行うことで、廃棄物排出抑制を行う。	B	
		CO <sub>2</sub> 排出削減、省エネルギー等の観点から、環境意識を涵養するため、電気・ガスの使用量に関する情報提供を行う。	B	
メディアの活用	学校図書館の機能や役割の充実を図り、教育活動や読書活動の支援に努める。	広報紙の発行や各種の企画展示等を通して、図書館の積極的利用を勧め、生徒の自発的・主体的な読書習慣の形成に努める。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・各種イベントにより、図書館の利用推進活動を行うことができた。</li> <li>・情報リテラシーを身に付けさせるための取組には課題が残った。</li> <li>・ICT機器の活用にともなって、場面に応じたデジタルデータと紙の資料の活用の検討が必要である。</li> </ul>
		図書館と各教科が連携して、図書資料等の整理・充実やICT機器の活用に努め、探究活動の支援及び言語活動の充実を図る。	A	
		教職員の教科指導や研究活動に関し、資料・情報の収集に努め、図書の供用や情報提供等、教職員へのサポート機能の充実を図る。	A	
家庭・地域社会との連携と広報活動	小中高連携を進めるとともに、学校の魅力を広く伝え、中学生や府民から選ばれる学校をめざす。	広報媒体のデザイン刷新に努めるとともに、全校体制による説明会の活性化・ブログの充実・中学校訪問での丁寧な対応により受け手に響く情報発信に尽力する。	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ブログの活発な更新やホームページの刷新作業を行うことができた。</li> <li>・嵯峨野ブログにて学校の様子などを知らせることができた。今後は、発信する分野のバランスについての検討が必要となった。</li> <li>・学校説明会の開催を通して、本校の教育目標や教育活動を知らせることができた。</li> <li>・地域の小学生を対象に科学教室を実施することができた。</li> </ul>
		学校説明会や地域の小学生を対象とした科学教室などを通して、本校の魅力を伝えるとともにニーズに応じた取組の開催を目指す。	B	
		広報資料の作成にあたって、印刷物にとらわれなく、より効果的な広報手法の提案と実践に努める。	B	

評価領域	重点目標	具体的方策		まとめ
施設設備・文書管理	学習環境の維持、適切な文書管理、情報管理を行う。	学校施設・設備の安心安全の確保のため、委託業者による法定点検のみならず、校内自主点検を加えることにより、危機管理的予防対応も可能な校内体制を構築する。	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・設備が老朽化している箇所については随時改修を行ってきているが、今後もさらに改修することが望まれる。</li> <li>・LED化など時代に即した設備改善を進めることができた。</li> <li>・情報の共有化が進み、設備の不具合についての共有が進んで、迅速な改善につながった。</li> <li>・授業配信に関する機器の整備などを進めたが、今後の状況を踏まえたさらなる機器整備が必要である。</li> </ul>
		照明設備のLED化、ICT設備の充実や老朽化した設備の更新などについて、計画的効率的に予算を利活用し更新整備を図り、学習環境の充実のため予算確保に努める。	B	
		業務改善の一層の推進のため紙媒体文書の電子化推進と、それに伴う個人情報の保護や機密情報の管理などリスクマネジメントを行う。	B	
		コロナ対応など即応性が必要な事案については、スピード感をもって対応する。	B	
		コミュニケーションエラー等的人的起因となる事故を未然に防止できるよう、多重牽制など複数確認と業務効率の両立に努め、高いチーム力が発揮できる円滑・円満な人間関係の構築を目指す。	B	

学校運営協議会による評価	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 十分な教育活動ができているので、もっと高く評価してもよい。</li> <li>・ 嵯峨野高校ならではの教育活動をこれからも推進してほしい。</li> <li>・ 先生方の余力が大事であり、働き方改革の視点を重視してほしい。</li> <li>・ ICT関係の研修など短い時間を有効に活用して研鑽に努めている点は特に評価できる。</li> <li>・ 教育環境の充実のために設備の更新は今後も進めてほしい。</li> </ul>
--------------	--

次年度に向けた改善の方向性	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 嵯峨野高校が目指す質の高い授業とは何かを明確にし、スクールポリシーの構築における柱とする。</li> <li>・ 学習用タブレット端末を活用した授業実践がさらに進展するための様々な方策を講じる。</li> <li>・ SSH事業や国際交流など本校の特色ある取組をさらに充実させる。</li> <li>・ 分掌間の連携をさらに密にして、よりよい全校体制を構築し教育活動を推進する。</li> <li>・ 新学習指導要領の主旨に則り、観点別評価を適切に実施し指導と評価の一体化を目指した教育活動を実施する。</li> <li>・ R7年度大学入試を見据えた進路指導のあり方を検討する。</li> <li>・ 人権尊重の意識や挨拶、マナー等の規範意識を向上させ、自立した行動ができる生徒を育てるために各学校行事を充実させる。</li> <li>・ Withコロナの生活が円滑に行えるように、関係部署との連携を密にして実施する。</li> <li>・ HPの改定とそれに伴う情報発信のあり方を根本的に見直す。</li> <li>・ 嵯峨野ブログや学校説明会を通して、本校の教育活動や教育目標を積極的に知らせていく。</li> <li>・ 常時施設点検を行い、学習環境の充実を一層図る。</li> </ul>
---------------	--